

令和7年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前： 荻田 隼人

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

中国（南昌・景德鎮）で学んだこと

高松高校1年 荻田 隼人

2025年8月17日～22日

「変わる chenging」

僕は8月17日からの6日間、中華人民共和国に訪れました。個人としては、2年ぶり2回目の中国への渡航となりましたが、やはり中国という国の大きさ、スケールの違いに改めて驚き感動しました。これに加え、今回の中国研修では、前回見えなかった、中国の人や国への変化に気づくことができました。まずは、それについて述べていきたいと思います。

まず感じたことは、陽気で社交性が高く、とてもフレンドリーな性格を持っているということです。今回は、自由行動が多くなり、お店の方、お客さんと関わる機会が多くありました。お店の中や周りを見渡しても、お客さんと店員さんとの距離がとても近く、またお客どおし話しており、笑っており、とても親しみを感じやすく、日本にはないものだと感じました。この性格こそが、中国の良さであり、中国の雰囲気を作っているのだと感じました。

次に感じたことは、経済発展を目で感じる事ができたことです。前回訪れた際、建設途中の建物を多く見る事ができ、とても期待が膨らんでいました。そして今回また訪れ、街の様子を見てみると、構造物の量、人の活気がより多くなったような気がします。また、中国で「変わったことはありますか？」と現地の政府の方に聞いてみました。すると、教育に力を入れるようになったと言っており、即座な経済発展を遂げる中国において、優秀な人材の確保は必要であり、これからの社会に向けての先行投資のように感じました。このような点で、日本は中国の良さをもっと取り入れるべきだと感じます。

そして、今回特に思い出に残っていることは、親友F君に会えたことです。F君は中国の子であり、知り合ったのは2年前、高松市訪中親善訪問団として中国を訪れた際です。言語もお互い未熟な英語でしか会話できませんし、文化の違いもあると思います。しかし、それでもなんで親友と言えるかという、それは心が通じ合っているからです。互いに笑いあえ、恋愛相談をし、将来について語るそんな友人は多くはいません。しかも海外には特に。僕はこれからも日中友好関係の一步として、また1人の親友としてこの関係を大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような人生の中でも数少ないような経験をさせて下さった、高松市、そして、中国江西省の政府の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。謝謝